

軽量樹脂ルーフィング IMA ルーフコート® SR 施工説明書

ルーフコートSR・粘着ルーフコートSR 共通
(粘着ルーフコートSRはステープル留め付けなしで施工できます)

※ルーフコートSRは廃番となり、新製品：ルーフコートSRplusに移行致します。

●施工前の留意

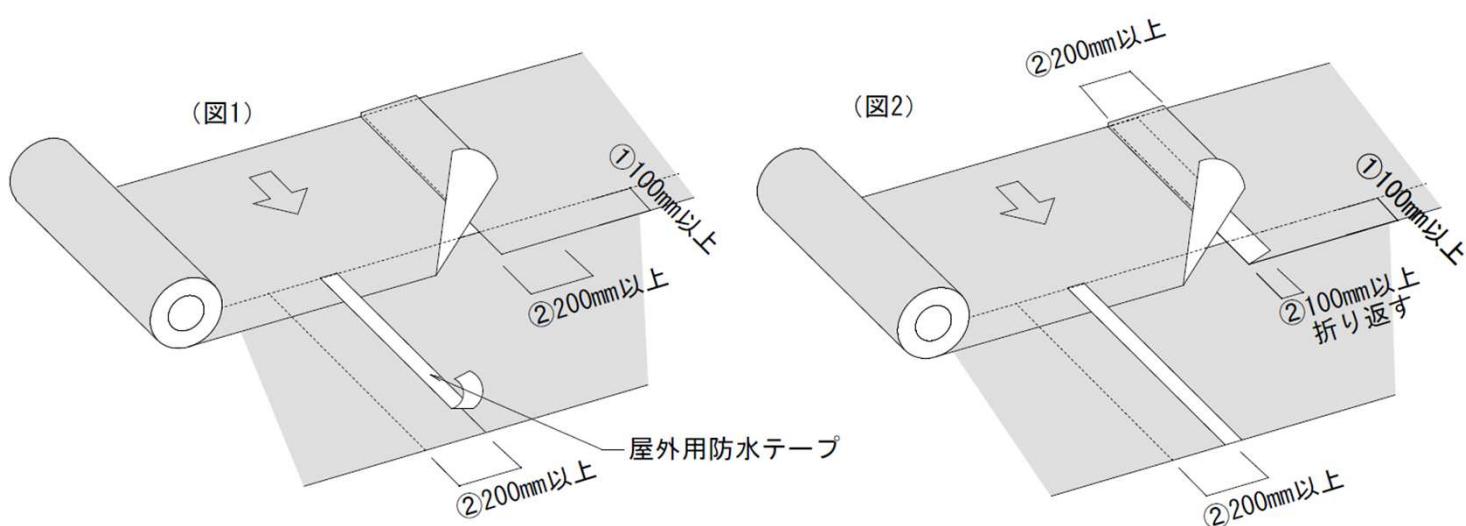
- (1) 本製品は屋根の下葺き材です。表層での使用はしないでください。
- (2) 3寸未満の緩勾配などで、ステープルなど釘穴や重ね代の部分からの浸水が懸念される場合は、屋外用防水テープなどによる防水補強を推奨します。
- (3) 野地板表面は清掃を必ず行い、突起が無いことを確認してください。
- (4) 野地板に目地空きや段差がある場合は修正してください。
- (5) 野地板は充分に乾燥した状態で施工してください。
- (6) ステープルの打ち損じ(座屈等)、空打ちは、漏水の原因となるため、屋外用防水テープで覆うなど補修してください。
- (7) ステープルは重ね部以外には打たないでください。重ね部以外で打った場合で漏水の懸念のある箇所は屋外用防水テープで覆うなど補修することを推奨します。
- (8) 強風下での施工は避けてください。
- (9) 屋根材の施工はルーフィング施工後速やかに施工してください。
- (10) 火や高熱物を近づけないでください。
- (11) 保管は、高温、水濡れ、直射日光にさらされない場所でしてください。

施工方法 (推奨施工例)

【施工例1】

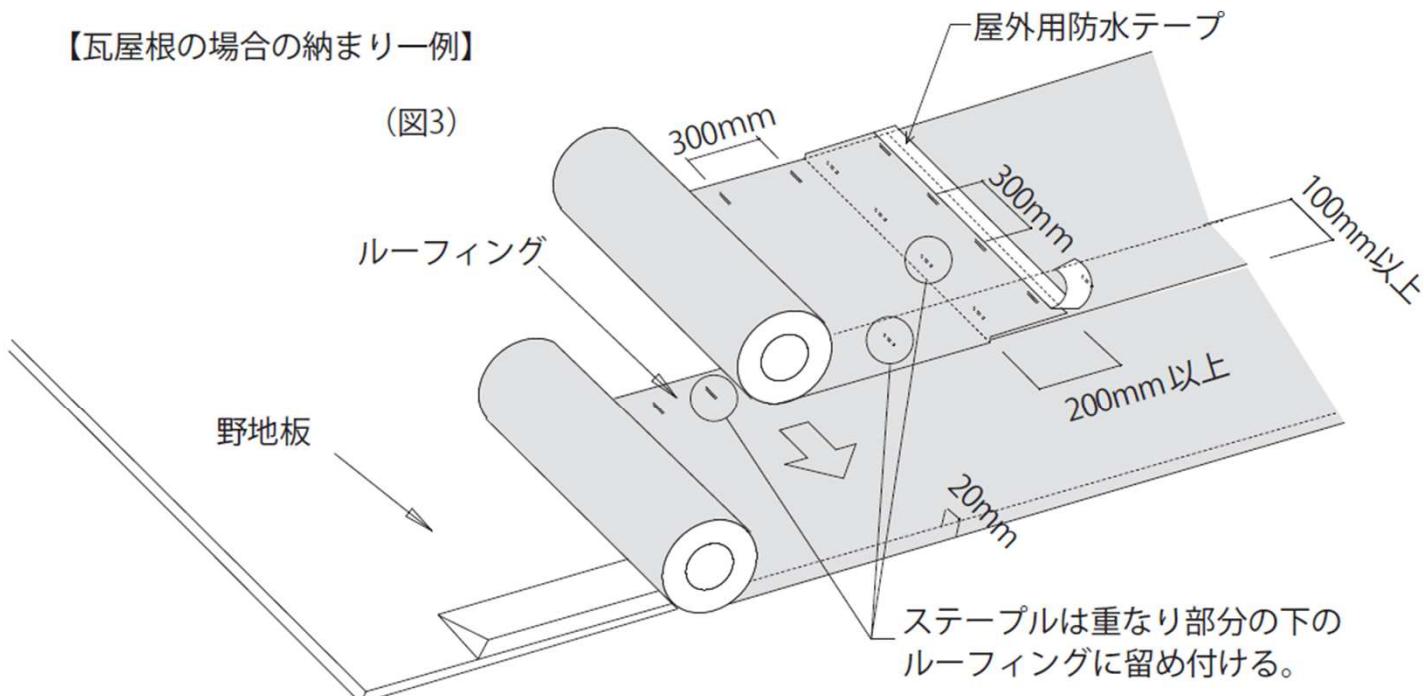
平部

- (1) ルーフィングは原則桁行き方向に横貼りしてください。
- (2) ルーフィングの重ね部は、長手方向200mm以上、流れ方向100mm以上とし、シワ、緩みのないよう貼り上げます。長手方向の継ぎ目は接近しないように乱貼りとします。※必須
 - ・長手方向の継ぎ目は屋外用防水テープを貼ります。(図1参照) ※推奨
 - ・もししくは下側にくるルーフィングの端部を100mm以上折り返し、上側にくるルーフィングを200mm以上重ねてください。(図2参照) ※推奨



・ルーフィングは、軒先先端より20mm程度出し、順次登り方向に貼って行きます。流れ方向の重なりは100mm以上、桁行き方向の重なりは200mm以上を確保してください。※必須

【瓦屋根の場合の納まり一例】



(施行例)

【施工例2】

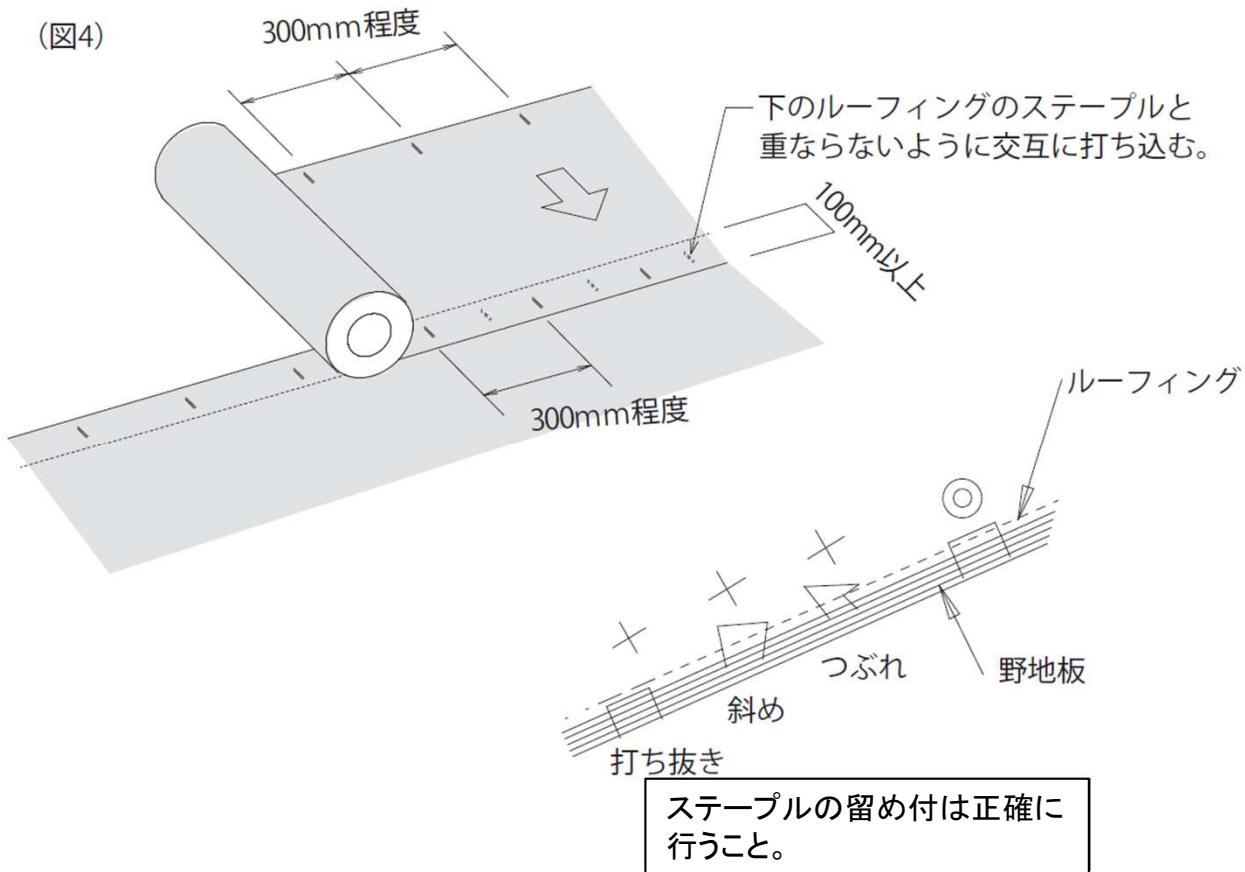
平部

(3) ステープルはルーフィングの重ね部に打って下さい。重ね部以外にステープルを打った部分で浸水の恐れのある部分には必ずは屋外用防水テープを貼ってください。※必須

ステープルの留め付けは、重なり部分の下のルーフィングに300mm程度の間隔で留め付け、上のシートは100mm以上重ね（シートに印刷されている線が目印です）、下のステープルと重ならないように交互に300mm程度の間隔で留め付けます。（図4参照）※必須

ステープルはステンレス製を推奨します。

(図4)

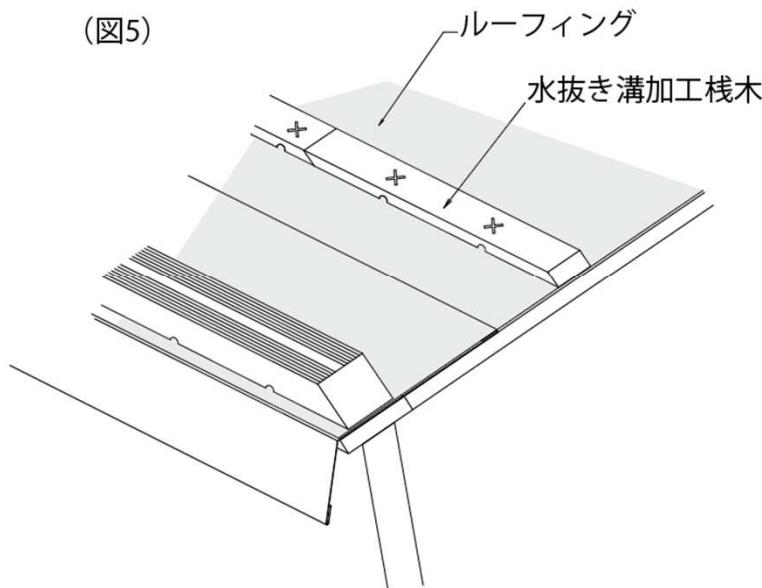


(4) 瓦桟木等の施工は、流し桟工法や溝が加工された桟木を使用し、桟木に雨水等が滞留しないようにしてください。※必須

<瓦屋根の場合の納まり一例>

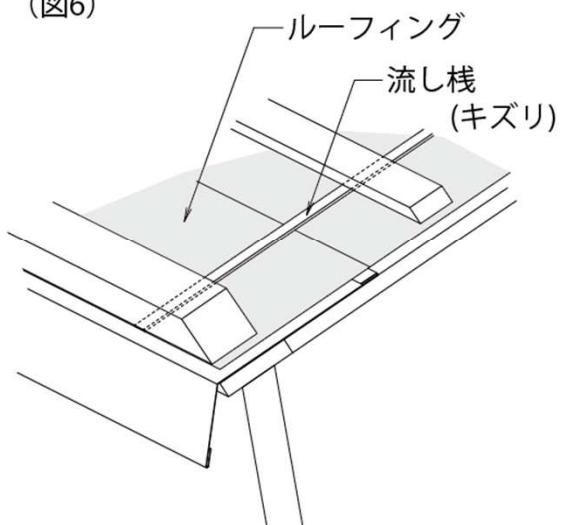
水抜き桟木工法例

(図5)



流し桟工法例

(図6)

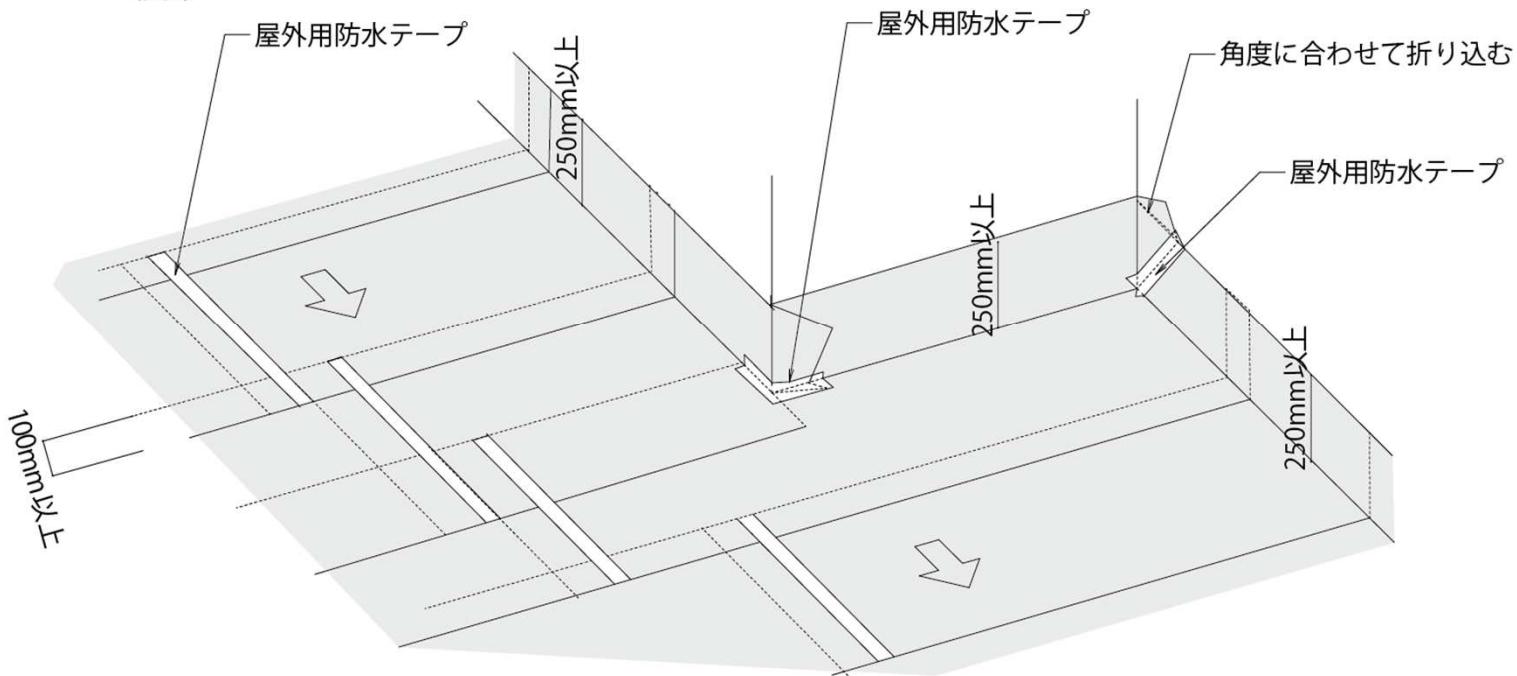


【施工例3】

壁際部

(5) 壁取り合い部はルーフィングを250mm以上立ち上げてください。※必須

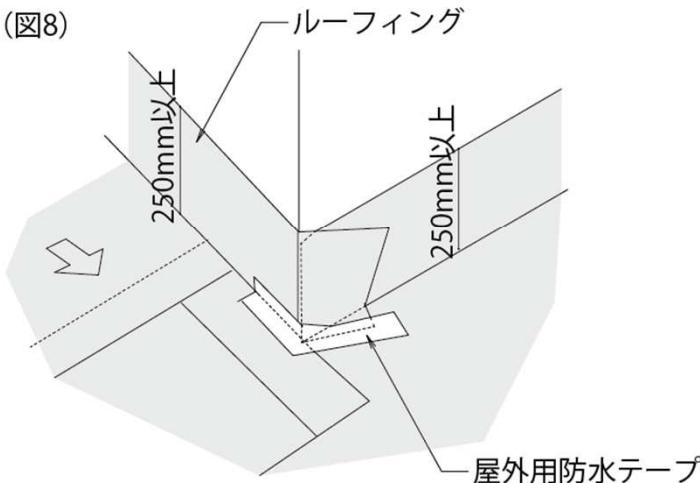
(図7)



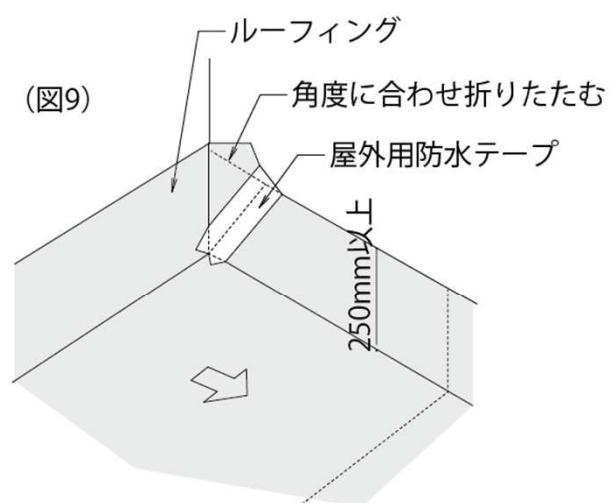
・壁際部は平行側・流れ側とも250mm以上の立ち上げてください。雨押え板金を使用する場合は、雨押えの上端より50mm以上の立ち上げを確保してください。※必須

(6) ピンホールが出来るおそれがある箇所（出隅、入隅など）は、屋外用防水テープ等で補強処理をします。※必須

(図8)



(図9)

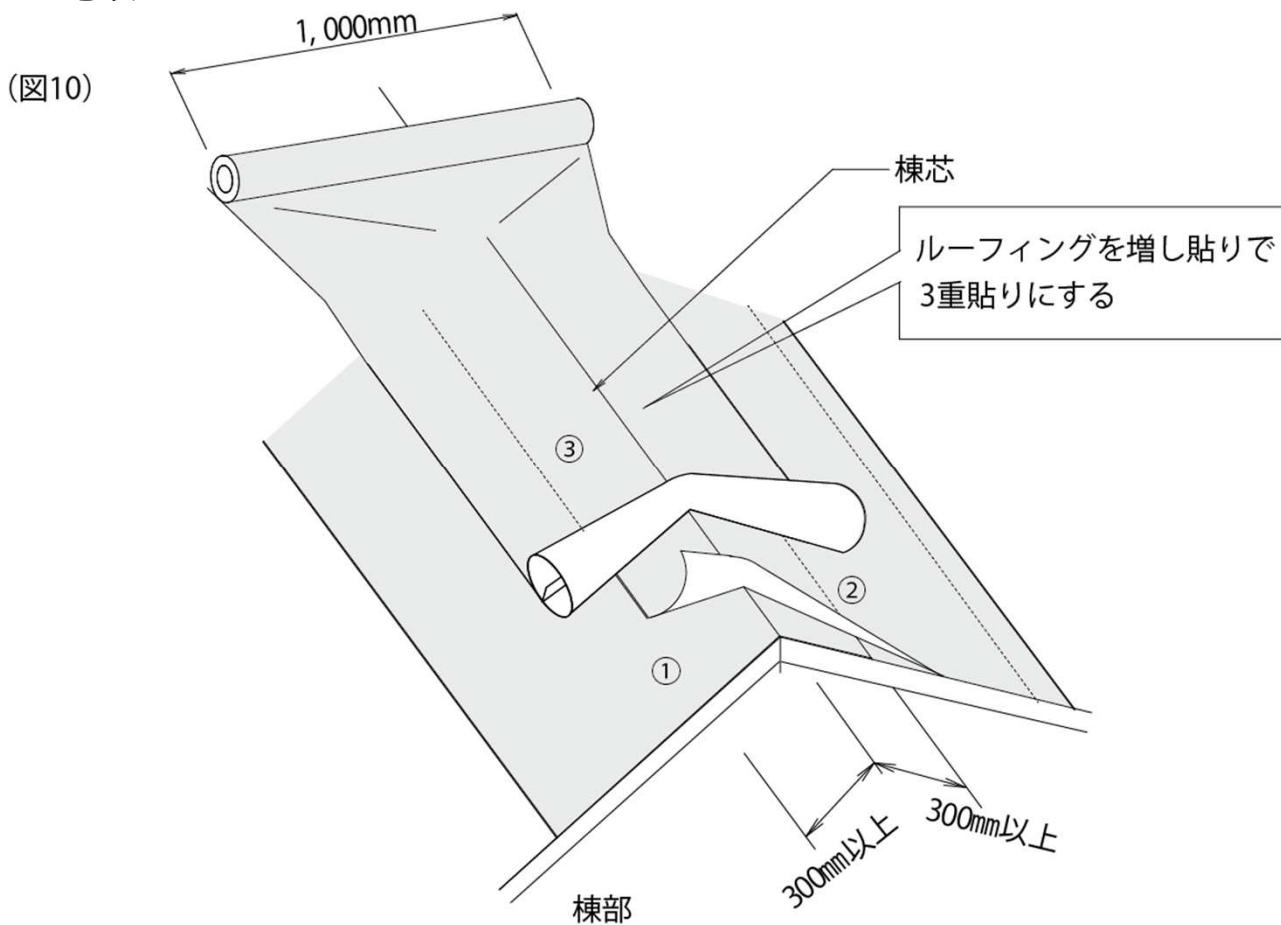


【施工例4】

棟部、隅棟部

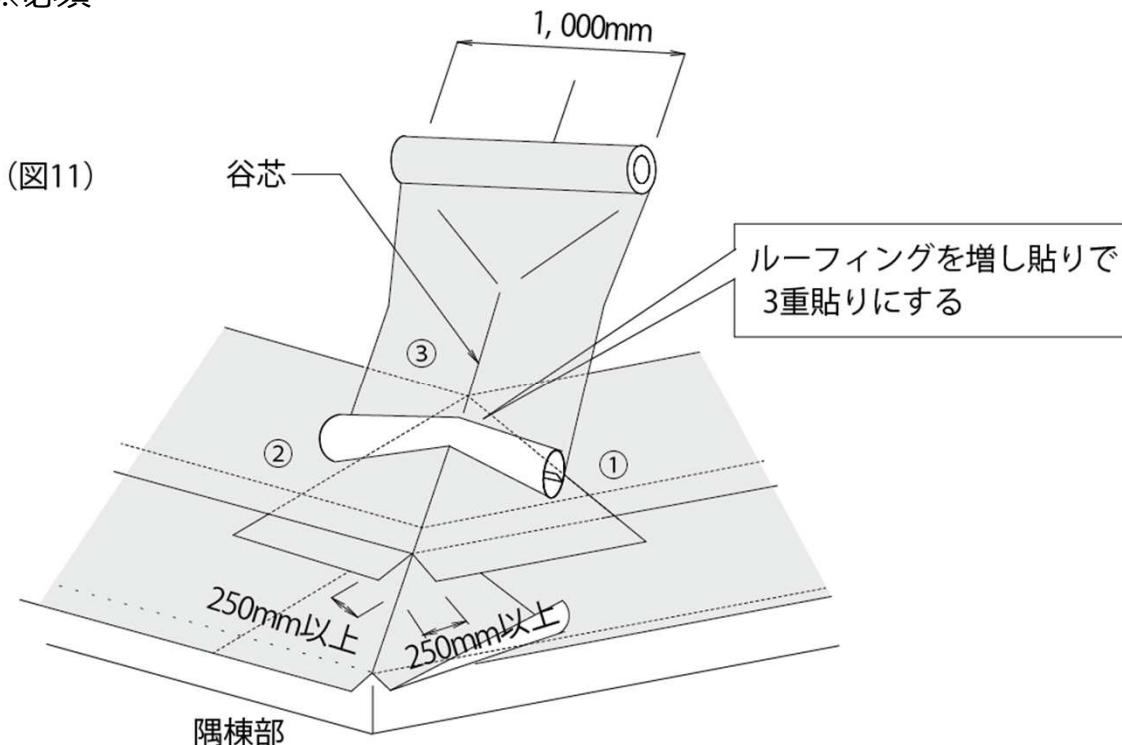
(7) 棟部（図10, 11参照）

大棟部においては、300mm以上ずつ両側折掛けとし、さらにルーフィング（1,000mm幅）を棟頂部から左右へ折掛けるように増し貼りしてください。隅棟部においても同様に増し貼りして下さい。
※必須



- 隅棟部に関する限りでも、250mm以上の重なりが充分確保できるように、ルーフィングを貼ります。

※必須

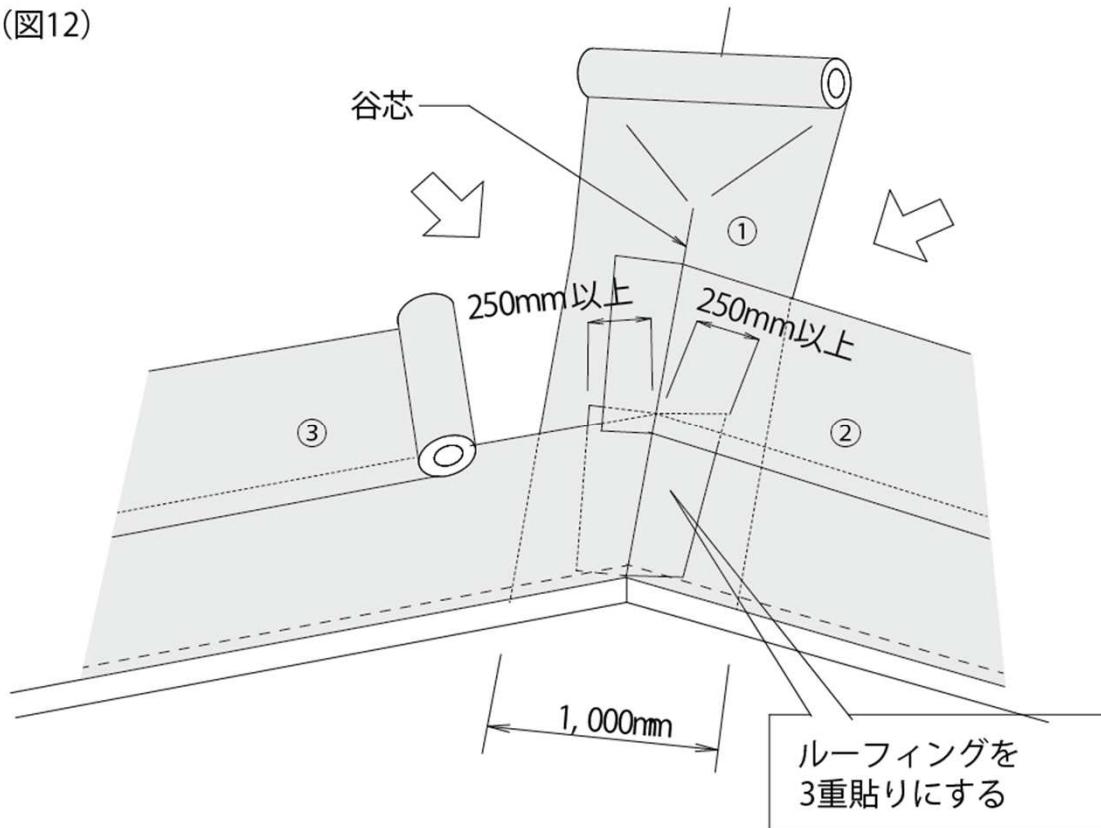


【施工例5】

谷部

(8) 谷部は、谷底から左右へ①ルーフィング（1,000mm幅）を先貼りし、
その上から②③ルーフィングを左右に重ね合わせながら、谷底より250mm以上伸ばし
施工してください。※必須

(図12)



【施工例6】

軒先、けらば部

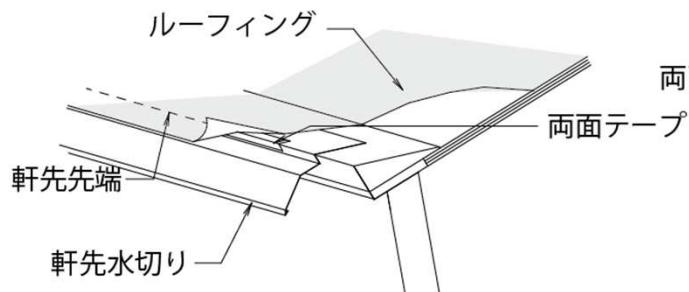
(9) 軒先部は、瓦座・広小舞や鼻隠しの上まで覆うように貼ってください。軒先水切り金物には両面防水テープで密着させます。

鼻棧の施工は、流し棧工法や溝が加工された棧木を使用し、棧木に雨水が滞留しないようにしてください。※必須

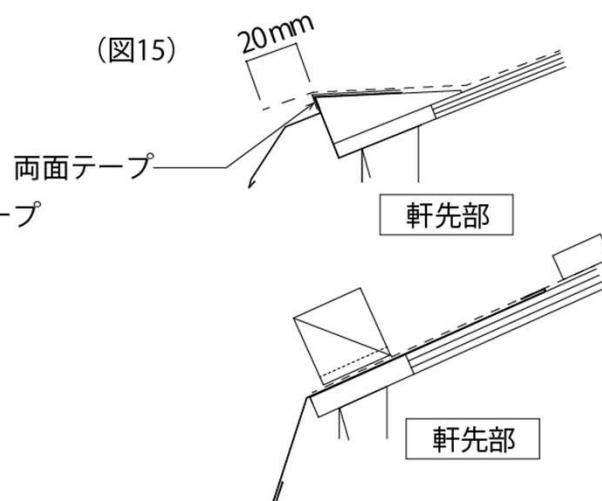
<瓦屋根の場合の納まり一例>

一般的な納まり例（図14, 15参照）

(図14)

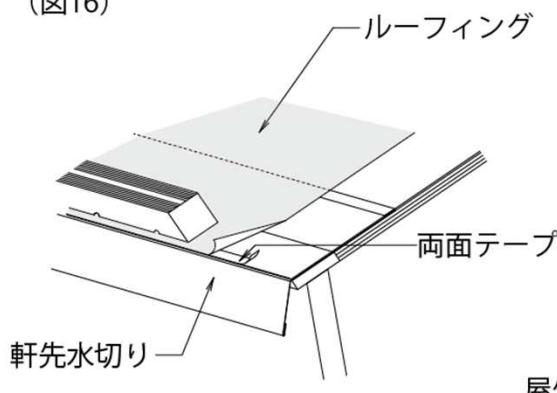


(図15)

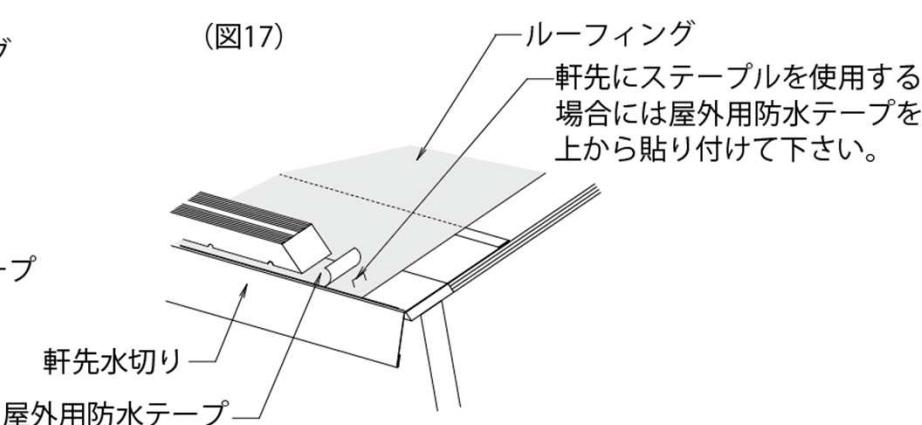


溝加工の棧木を使用する場合（図16, 17参照）

(図16)



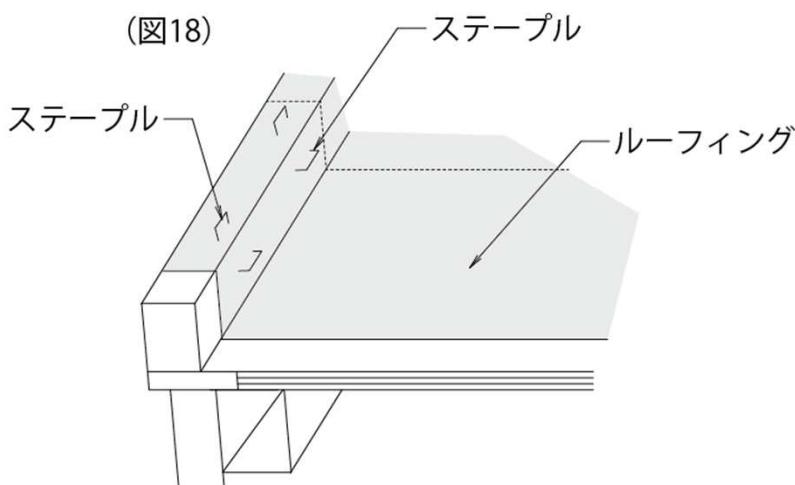
(図17)



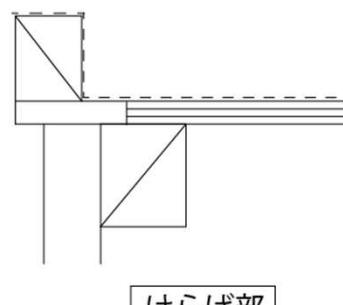
(10) けらば部は、けらば登り淀までルーフィングをかぶせ、端部を屋外用防水テープで防水処理をしてください。※必須

<瓦屋根の場合の納まり一例>

(図18)



(図19)



けらば部